

中村胃腸科内科

# 離島医療のハンディ克服

## 県が「経営革新計画」承認

「胃がん、大腸がんで腸科内科(中村献院長)は効率化を図り、離島に亡くなる人を減らす」を使命に掲げている中村胃



WEB問診などについて説明する中村院長(20日、中村胃腸科内科)

「胃がん、大腸がんで腸科内科(中村献院長)は効率化を図り、離島に亡くなる人を減らす」を使命に掲げている中村胃

「胃がん、大腸がんで腸科内科(中村献院長)は効率化を図り、離島に亡くなる人を減らす」を使命に掲げている中村胃

が、同医院ではがん健診や特定健診の受診者が増加したという。

中村院長は「発熱外来や予防接種業務などもあり、健診の予約を受けることができない状況があった。1件でも多く検査をするためにはどうすれば良いかと考えたとき、効率化を進めてみよう」と決めたという。

具体的には▽WEB問診▽オンライン診療▽クラウド型健診システムへの導入。WEB問診はこれまで看護師や医師が聞き取りで行っていたものをホームページから実施してもらうことで、一般外来や再来の患者の待ち時間短縮と回転率が上がる。また、在宅でも問診することができ、WEB環境がない患者は同クリ

ニックに来所し、タブレットで実施できる。また、オンライン診療は処方せんが家に届くことから受け取り負担が解消されることや新型コロナウイルスなどの2次感染の不安解消にもつながる。中村院長は「宮古島市の現況は県内11市ランキングでメタボ、血圧等がワースト1だが、特定健診およびがん健診の受診率が低いので、今後も市において地域医療、健診の需要は増えてくると考えている」との見解を語り、「業務の効率化を進め、受け入れ可能な健診、検査の数を増やし、がんを早期発見すること、胃がんや大腸がんで亡くなる人を減らすことで地域医療への貢献を実現していきたい」と訴えた。